

○ レポート

生徒指導の充実の取組

森 康治 北海道静内高等学校

1 取組

北海道静内高等学校に勤務するのは2回目であった。着任したのが平成 21 年度であり、静内高校が全日制普通科単位制として新たなスタートをきったところであったこともあり、着任当初から生徒指導に関し、率直に言って、生徒の制服の着こなし方に対する指導が不十分であり、そう感じている教職員は少数ながらもいることに気づいた。

そこで、着任 4 年目の平成 24 年度に生徒指導部長として、前述した状況をなんとか打破しなければいけないと考え、まず行ったのが、4 月当初における職員会議での生徒指導部方針の確認、そして、育成すべき生徒像として「当たり前のことを当たり前でできる生徒」の育成を目指すこと、さらに、「昨年度の成果と反省を踏まえ、言われてやるのではなく、いわゆる自己指導能力、その時その場でどのような行動が適切であるかを自分で決定し実行し、その結果に対して責任を持つ能力」を育成する（身につけることができるようサポートする）ことが大切である。」と訴え、生徒指導部が率先するとともに、年次団の教職員と連携することが、現在、静内高校が抱える生徒指導上の問題点を克服するすべであることを確認した。

次に、生徒の「自己指導能力」を育成するため、今までの対処療法的生徒指導から、生徒指導部通信を利用し、「生徒が通信から自分たちの課題を理解し、考え、行動させる」生徒指導に方針転換した。生徒指導部通信については、朝学習の時間を利用し、読ませたことも奏功した。

2 成果

現在、制服の着こなしについての問題は少なからずあるもののそう多くはない。生徒指導部長を離れた期間は 3 年あるものの、「自己指導能力」の育成、「静内でかなえる！地域に愛され、地域になくてはならない学校」の精神の一助として引き継がれている。